



ふくおか [Good] 農業人100
 主な農産物 / イチゴ (あまおう)

坂井 隆通さん (31歳) (営農地 / 久留米市城島町)

一生の仕事としてイチゴと向き合う

《就農のきっかけ》

就農は、運命の巡り合せ

自営業を営んでいた父親と、農業と一緒に始めようと決意し、就農するに当たって選んだ品目は「イチゴ(あまおう)」でした。

自らの農地は無く、父の兄が経営する農地を借り受けて就農しました。元々は祖父が農業を営んでいた農地を、今は父の兄が兼業で農業をしていた農地でした。このため現在は、借地として地代を支払い、施設園芸のイチゴを経営しています。

就農に当たり、まずはイチゴの栽培技術の習得が急務でした。近所の農家に相談したところ、県の農業人材確保支援事業という事業で働きながら農家で研修が受けられることを知り、早速応募しました。幸いなことに、同じ町内の就農4年目の新規就農された農家と巡り合い補助事業で施設建設が整うまでの約1年半を働きながら学ぶことが出来ました。

経営主とも仕事以外での趣味が合い、雇用される身でしたが圃場での作業を任せられ、責任感を持って研修を受ける事が出来ました。



プロフィール

■家族構成 / 父、母、本人 ■前職 / 他産業 ■営農年数 / 約3年
 ■耕作(経営)面積 / 20a ■販路 / JA共販

《これまでの過程》

就農のタイミングと日々の栽培管理

「今は、施設ハウス資材の高騰により、イチゴでの新規就農は誰にでもは勧められません。自分が建てた平成21年の次の年には、資材が高騰し前年対比で1.7倍の初期投資が掛かる様にまでなっていました。今では、それ以上の価格になっているはずです。」と語る坂井さん。

「また、イチゴは几帳面で無いと出来ません。一年を通して、苗から本圃、それから約半年間にも及ぶ収穫・調製と気を緩める事が出来ません。中でも「苗づくり」は、基本中の基本で、その1シーズンの作柄を左右しかねない重要な作業になります。夏場の水管理一つでも、必ず1ポットごとに確認しないと、掛かっていないポットはみるみる内に枯れてしまいます。病害虫についても、同様です。」と大変さを語ってくれました。

研修中の作業員の時はその作業をする事のみでしたが、自営して経営主となった今ではひとつひとつの作業の意味を考えて管理作業に当たる様に心掛けているそうです。

《これからの展望》

イチゴ経営の野望

これまでのイチゴ農家は、年間の総出荷パック数を非常に気にします。しかし、これは春先の3~4月期の安い時期に出したのも含まれているのです。

自分は、他の人以上に摘果を徹底し、S玉階級を出荷したことが無いくらいです。JA部会でも、EX玉階級の出荷パック数はダントツ1位ですし、単価も高単価を維持出来ていると自負しています。

また、人が出さない時期に出す工夫をしていて、出荷パック数よりもパック当たり単価を重要視しています。そのためには、自分なりの仮説を立てて取り組み、そのやり方が合っているのか、いろいろな人に聞きます。そして、その中から自分の仮説が正しいかどうかを判断し、次の管理に活かしています。

知識として知っているだけでなく、どうすれば・どうなるかといった応用力が求められていると感じています。考えないと農業はやっていけません。



Good 成功のためのポイント

こまめな管理をどうするのか?(考えてやる農業)作業は誰にでも出来る。病害虫管理では、薬剤選定をどうするのか、経営管理では、経費をいかに抑えていくのか、経営主としての判断が問われる。一生の仕事として、覚悟して取り組むことが重要なのではないのでしょうか?